

ひろがれ！そうぞうりよく 「いろえんぴつプロジェクト」



体育館で本格的な演劇作品を上演

子どもたちに生の芸術に触れる機会をプレゼントする活動を中心に取り組んでいるいろえんぴつプロジェクト（通称いろプロ）の始まりは平成28(2016)年。コンセプトは「どんな子どもでも観に来られる」。そう考えると無料以外にない。とにかく1回やってみようと、複数の団体が協力してプロジェクトとして走り出しました。平成29(2017)年3月、中原区の今井小学校における寺子屋事業「寺子屋今井体験活動」の一環として、体育館で演劇を上演することに成功！2回目の上演も成功し、今後もこの活動を続けていこうと、いろプロは一つの活動団体となりました。

活動の中心となっているのは8名ほどの運営スタッフ。そこに、オブザーバー、クリエイティブパートナー（理念に賛同した役者やクリエイターといった専門家）、様々な企画に主体的に参加しているいろプロサポーターの皆さんが加わり、それぞれの得意な技術とアイデア、そしてユーモアを持ち寄って、いろえんぴつプロジェクトを動かしています。

活動の背景にあるもの

子どもたちに上質な舞台を無料で観劇してもらおう。無謀ともいえるこのような取り組みをなぜ始めたのか、いろプロ代表の堤真理子さんに聞きました。「プロジェクトの発足当時、子どもの貧困率が6人に1人という数字が社会に衝撃を与えました。生活環境や経済の格差、子どもの貧困が深刻化し、感受性を育む体験や、自己表現の場など、心の成長を育む機会に恵まれなまま成長する子どもが増えています。空腹を満たすことはできませんが、別の形で彼らの未来への希望につながるフックとなるようなもの、彼らの心に届くような演劇を上演したいと思ったのがきっかけです」。



いろえんぴつプロジェクトの願い

どんな境遇にある子どもたちにも『自分を表現する力』『夢見る力』を持ってもらいたい。子どもたち一人ひとりに、生きていくエネルギーとしての『想像力』を失って欲しくない。だれもが自分の『色』で、自分の『心』を表現できるように。豊かな想像力が『生きていくエネルギー』を育てられるように。

学校の体育館がみんなの劇場になる日

活動の柱、いろえんぴつ劇場で上演する『グレイッシュとモモ』は、ドイツの児童文学作家ミヒヤエル・エンデの『モモ』を原案に、1996年に激弾BKJU(げきだんび一きゅう)という演劇集団により創作された舞台劇です。生き辛さにあえぐ子どもたちに、「生きていくエネルギーとなる想像力を失わないで」と伝えたくて創作されたこの作品は、時代が変わっても色あせることなく「今の人々」に伝える力を持つ、知る人ぞ知る名作です。

体育館を特別な空間に見せるため、クリエイティブパートナーの皆さんと知恵を出し合い、工夫をこらして劇場を作り上げています。コストをかけられないので、役者の皆さんも大道具や舞台設営に関わり、演じる以外にもやる事が多く大変ですが、作品を見て感動して、次は自分が出たいとアプローチをかけてくれる若い役者さんたちが増えているのだそうです。

特に盛り上がるダンスシーンでは、障がいのある子どもも健常の子ども、大人も子どもも、思いっきり踊ります。このインクルーシブなシーンが核となって、毎回いろプロらしい演劇空間を創り出しています。



俳優陣との共演で盛り上げるダンスシーン

クリエイティブをまんнанかに 楽しくごちゃ混ぜ！

コロナ禍では、演劇を上演することができませんでした。そこで、ダンス動画を作ったり、寺子屋今井体験活動の「あこがれのお仕事シリーズ」に協力したりと、活動の幅が広がってきたそうです。堤さんに今後について聞くと、「体育館公演を地域の文化祭のようにしていきたいです。創作の現場に参加することで誰もが新しい自分と出会えます！」と力強く話してくださいました。

かつて子どもだった大人の皆さん、あなたも「そうぞうりよく」のスイッチを入れてみませんか。



恒例となった出演者と観客の記念撮影



いろえんぴつプロジェクト

〒211-0053

中原区上小田中 5-11-12

アトリエ・ナンディナハウス

メールアドレス iropro.email@gmail.com

ホームページ <https://iroenpitsuproject.com>

ホームページ

